

突撃！おもしろインタビュー —教室を飛び出し日本人と話す—

杉本 美穂

科目名：総合日本語

レベル：初級①・2／中級3・4・5／上級6・7・8

履修者数：7名

1. 実践の趣旨

実践の第一の趣旨は、学習者を教室の外へといざない、日本人と話す実地体験を積む機会を与えることである。これによって、学習者は自らの日本語力に対して自信をつけたり、あるいは内省したりする機会が生まれるのではないかと考える。また、二つ目の趣旨として、学習者が抱いている日本・日本人に関する興味・関心事について、自らの見解を深める機会を作ることを期待した。

2. 実践方法

上記のような目的を設け、「とつげき！おもしろインタビュー」と題した本実践を、当該学期中、計4回実施した。これは、学習者が大学構内で日本人学生を対象にアンケート調査を試みる活動である。

実践の準備として、教師はあらかじめ、ハンドアウト（大テーマ・小テーマとアンケート設問の例・アンケート調査時の台詞モデル・まとめレポートの構成モデルを示したもの）を用意しておく。大テーマは、主教材である『みんなの日本語Ⅰ』の学習進度に合わせて、最近学習した課の文型が小テーマとアンケート設問に生かされるようなものを想定し、まとめレポートの構成モデルも同様に、学習進度に合わせて各回の表現を変えた。

このハンドアウトを使い、まず、教室で全体ディスカッションをしてそれぞれの小テーマ案とアンケート設問案（4つ程度）を詰めていく。それから各自作業を経て、最後にグループワークでコメントを出し合い、小テーマとアンケート設問を完成させる。完成したら全員で教室を出て、大学構内で調査に応じてくれそうな日本人学生を探してアンケートを取る。その際、教師は、話しかけるのに躊躇する学習者を促したり、不信感を表す日本人学生には日本語授業の教室活動の一環であることを保証したりした。また、応答に窮する場合は、サポートに入った。調査結果はレポート（A4版太罫レポート用紙に半枚程度）にまとめて、翌週提出することとした。

この活動は、「まとめテスト」が終わった後に設けられていた「クラスの時間」を利用し、小テーマ・設問作りからアンケート調査までを40～50分で行った。

以下表1に、各回の大テーマ・学習者が案出した小テーマ例・実践時の学習進度を示す。

表1 「とつげき！おもしろインタビュー」テーマ

回	学習進度	大テーマ	小テーマ例
第1回	L.1～L.6	(大テーマ設定なし)	日本のバスと電車・日本人の趣味・日本の祭りと観光地
第2回	～L.13	日本人の学生生活の印象	学生のアルバイト・日本人の高校の生活・学生の毎日の生活
第3回	～L.22	日本人の結婚観について	(『みんなの日本語初級 I 初級で読めるトピック 25』 L.21 「結婚!?!」のアンケート設問を使用)
第4回	～L.25	春休みの旅行	(「大学生協オススメホテル得々ホテルプラン全国版」を見て、興味がある地域のホテルに電話し、旅行プランを立てる。)

3. 実践の成果と課題

事後アンケートでは、概ね実践の趣旨が果たせたことを示すコメントを得た。見知らぬ日本人に話すのは大変で恥ずかしかったが、日本語で話してみる練習としてよかったという内容である。また、「インタビューの質問とテーマはおもしろかったです」「みんながしんせつです」等、日本理解への第一歩を踏み出してくれた様子もうかがえた。実際、アンケートに協力してくれた日本人学生から、設問の回答だけでなく所属学部や学年を問うてくれる自発的な対話も生まれており、日本語で会話してみる実地体験としてのおもしろさも見られた。(ただ、一方では、アンケートに協力を求めても断られてしまう場合が少なからずあったのも事実である。)

さて、この実践をつうじて生まれた課題であるが、まず、前述のとおり、快く回答してくれる相手をどのように求めるかという課題がある。次に、大テーマの設定方法にもまだ大きな要改善点を残した。実は、第1回実践では大テーマを定めていなかったが、その結果、回答がおそらくその時点の日本語学習段階を大きく超えた表現になってしまうだろうテーマを選択してしまった学習者がいた。それで、第2回から教師が大テーマを設定することにしたわけだが、最近学習した課の文型が生きるようなものを想定したはずが、実際は当てが外れるケースが多々あった。例えば第2回実践では形容詞文産出を想定したが、学習者から出た小テーマや設問は、この想定にはまっていなかった。

これらの課題を解決する実践案として、例えば「好きな形容詞を3つ挙げてください」と設問を1つに絞って、クリップボードにさっと書いてもらうというような、より簡潔に回答できるアンケートも取り入れてみたらどうだろうか。機会があればぜひ試みてみたい。

(すぎもと みほ, 早稲田大学日本語教育研究センター)